

## 「ロータリーの樹」

ロータリー理念研究委員会  
松田 泰長  
(成田RC)



出典：2008年国際協議会 渡辺好正 元RI理事

\*新世代奉仕は青少年奉仕に、綱領は目的に変更されています

この画はロータリアンであれば一度は目にしていると思います。2008年国際協議会に於いて渡辺好政元RI理事が職業奉仕の重要性を説いた講演で使用したものです。

クラブ奉仕という「根」から吸収された「水」と「栄養」、すなわち、「サービスの理念」は、ロータリーの根幹といわれる職業奉仕の「幹」に入り、「幹」の中にある「奉仕の理想」という導管を通して「社会奉仕」、「国際奉仕」という枝や葉に届き、そして、「ロータリー財団」という「花」を咲かせます。また、それぞれの奉仕活動が、すべて、お互いに助け合い、励まし合い、相働いて多くの「実」を結びます。そして、ロータリーの先輩たちが、過去において夢見ていた多くの事柄、また、現在に生きている私たちが夢として抱いている多くの事柄が、「形あるもの」となるのであります、と解説されました。

今年度も残り3ヶ月となっており、地区、各クラブ共に年度計画に照らして纏めの段階となっております。

皆さんそれぞれの立場で達成率はどのくらいですか。

2790地区は地区大会が終わり、次年度へ向けての活動がスタートしております。「地区チーム研修セミナー」、「PETS・会長エレクト研修セミナー」、「地区研修・協議会」が開催され、各クラブに於いても次年度計画が協議され纏めに入っているところと思われます。

皆さんの所属した委員会、又は携わったプロジェ

クトの枝と葉は大きく育ちましたか？花が咲き実を結びましたか？

ここで今年度櫻木ガバナーの「原点を知り、考える」に併せもう一度考えて見ましょう。

お酒を伴う親睦行事とゴルフには多くの参加があるけど例会と奉仕事業への参加は今ひとつ、継続事業も年々盛り上がり欠けるという反省が常にあります。なぜでしょう、各クラブの会長さん、委員長さん、プロジェクトリーダーさんは「ロータリーの樹」のどの部分で活動をしましたか、実をならそうとする枝を見て剪定をし受粉の手伝いをして摘果を施し漸く実がなりました、しかしその実が美味しくなかった！！ということですね。なぜでしょう、実を美味しくする水と栄養が足りなかったことです。

土の手入れはしましたか、肥料は施しましたか、水はやりましたか、下草を取り幹に日が当たるようにしましたか、そうです、根と幹がしっかりしていなければいけないのです。

「根」のクラブ奉仕は親睦が核です、親睦活動ではなくfellowship・友情、友愛です、毎週の例会でそれぞれが認め合い何でも相談出来る仲間となることです。

「幹」は職業奉仕です、ロータリーの一部には、職業奉仕は、難解であるが故に、ロータリーの拡大や会員増強、会員維持の妨げになっているという意見が聞かれることがありますが、事実は逆です。世界でも、自己の利益のみを目標としたために、巨大企業の不祥事が起こっており、日本でも、各方面での不正が多発しております。自分自身の職業が、他人のための事業であるとの認識に立つとき、ロータリーの職業奉仕の真髓が理解できると思います。歴史的に見ても、今ほど、職業奉仕の理念を必要としている時はありません。

「事業の倫理的水準が理想に近づいている場所でロータリーが最も栄えるとは喜ばしいことではないでしょうか」とは、ポール・ハリスの言葉です。

ロータリーは単年度制です、しかし例会で育まれた親睦と奉仕の理想は年をます毎に深く大きく育っていきます、毎年実の収穫ばかりを気にしていると「樹」が弱ってしまいます、1年先、2年先、10年先の収穫のために「根」と「幹」を丈夫に育てましょう。

参考文献：2008年国際協議会 講演集

ロータリー理念研究委員会  
海寶勘一（千葉西）、平山勝己（千葉若潮）、  
大内 啓（柏南）、島 正彦（館山）、松田泰長（成田）